



あいご



園通信 令和8年9月1日 第6号

キッドワールドセカンドこども園

園長 高木 良司

いつの間にかセミの声が聞こえなくなり、朝晩には秋の虫の声が聞こえはじめました。

日中はまだ猛暑が続いており、今週いっぱいプール遊びが楽しめそうです。水が苦手だった子が水が顔にかかっても怖がらなくなったたり、プールでは潜れるようになったりし、それぞれの成長が見られた夏となりました。

さて、9月の大きなめあては「思いやり」です。思いやりの心は、思いやりをたくさん受ければ受けるほど大きくなります。思いやりは、どれだけ注いでも注ぎすぎることはありません。たくさんの思いやりを注ぎ、保育目標の一つである「優しい子ども」を育てていきたいと思ひます。

<9月の予定>

- 9月 1日(火) シェイクアウト避難訓練
- 9月 3日(木) 滝尾中学2年生職場体験実習(～4日)
- 9月 4日(金) プール納め
- 9月 7日(月) 身体計測週間(～11日、すももぐみ、かりんぐみ、れもんぐみ)
- 9月12日(土) お弁当日🍱
- 9月14日(月) 身体計測週間(～18日、いちごぐみ、あんずぐみ、きういぐみ)
- 9月18日(金) わくわく思い出遠足(れもんぐみ🍱)
- 9月24日(木) 視力検査(れもんぐみ)
- 9月25日(金) 視力検査(かりんぐみ)、誕生会
- 9月28日(月) 視力検査(すももぐみ)
- 9月29日(火) 健康診断



保護者保育体験

8月3日(月)から7日(金)、保護者による保育体験を開催しました。今年は11人の方の応募がありましたが、お子さんの体調不良ということがあり10人の方に体験していただきました。それぞれのクラスの園児の前で、普段ご家庭で読んでいる絵本を読んでいただいたり、給食での配膳や片付け、そして、お昼ごはんの試食をしていただいたりと、たくさん体験していただきました。



お昼ご飯の介助です



みんなであいさつをしました



お昼ごはんの試食をきれいに
平らげました



名作『ぐるんぱのようちえん』
を読んでもらいました



制作あそび中です



あそぶ前の水分補給タイム



ごはんの配膳準備です



水あそびの様子観察です



色水あそび体験をしています



大人気絵本『だるまさんの』を
読んでもらっています

保育体験を通してどのようなことを楽しんでいただけるのか、感想をお寄せいただいていますので一部紹介いたします(一部修正しています)。

- ☆ れもんぐみの保護者保育体験に参加させていただきました。ありがとうございました。(半日でしたがびっくりするくらいヘトヘトになりました！)園での我が子の様子に新鮮さを感じると同時に、我が子は先生にもお友達にも大変恵まれているのだということに改めて気づくことができた体験でした。特に、先生方におかれましては、1秒おきに飛び交う「せんせー」という声に丁寧に対応され、子どもに共感しつつ、発達を促そうとしており、その姿勢には頭が下がる思いでした。想像以上に注意力和体力を要する職務を毎日果たしておられるにも関わらず、子どもにも、我々親にも常に朗らかにご対応いただいております事に改めて感謝申し上げます。息子の成長と先生方の偉大さを再確認できた1日でした。ありがとうございました。(また応募いたします！！)
- ☆ 今回も先生方の遊びの中での工夫や声掛け、対応が勉強になり改めて尊敬感謝の気持ちで一杯です。降園後、子どもから「先生になってくれてありがとう」と言われましたが、こちらこそ「体験させてくれてありがとう！」です。
- ☆ 保育体験をさせていただきました。普段の様子や園でどのように過ごしているのか見れたのでとても貴重な体験ができました。あらためて保育士さんの大変さもわかりました。またこどもへの関わり方もとても参考になり自分の育児でもこうしてみようと思えました。また参加したいです。

10人の方の保育体験、ありがとうございました。9月に体験したいという声がありましたが、次回は、11月30日(月)からの1週間です。たくさんのご応募お待ちしております。

お知らせ

<3歳未満児の生活発表会について>

4月にお知らせしていた年間行事につきまして、3歳未満児の生活発表会を2月13日(土)としていましたが、諸事情により2月20日(土)に変更します。既に予定を入れられた方につきましては、ご迷惑をおかけして大変申し訳ありません。

<職場体験実習について>

9月3日(木)から4日(金)、滝尾中学2年生が4人、職場体験実習で来園します。

<人事について>

一身上の都合により、竹村由美子保育補助員が8月31日付で退職しました。これまでご厚情を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

また、9月7日付で柏矢奈々美子育て支援員を採用しました。今後ともよろしくお願いいたします。

前回までに紹介しきれなかった^⑩番目の「人として美しい親になる」ということについて紹介していききたいと思います。

子育てにおいて、親自身の生き方や姿は、言葉以上に子どもに大きな影響を与えます。そこで、保護者が人として美しく生きることを自然な形で子どもにモデルとして振る舞っていくことが求められるのです。そのことを子育てと結びつけて分かりやすく紹介していききたいと思います。

1. 子どもにとって「親」という存在の大きさ

子どもは、生まれながらにして優れた両親の観察者です。親の発する言葉以上に、親の表情や態度、選択、そして生き様そのものを深く観察しながら育っていきます。

① 無意識の模倣(モデリング)

子どもは身近な大人(特に親)の背中を見て、「人間とはこういうものだ」「社会とはこういう場所なのだ」という世界観や人間観を無意識に学び取っていきます。

② 親の存在そのものが生きた教科書

親が「こうしなさい、ああしなさい」と教えることよりも、「親自身がどう生きているか」ということを子どもに見せることが、子どもの人格形成の土台となります。

2. 「人として美しく生きる」ことの意味

ここでいう「人としての美しさ」とは、親の外見の飾りや完璧さではなく、生き方の姿勢や在り方のことを指しています。

① 誠実さと一貫性

自分の言動に責任を持ち、嘘をつかず、物事に対して真摯に向き合うこと。

② 他者への思いやりと敬意

自分とは異なる意見や立場の人を尊重し、弱者に対して優しさや配慮を持つこと。

③ 失敗を恐れず学び続ける姿

自分の間違いをごまかさずに素直に認め、困難に直面しても前向きに乗り越えようとするレジリエンス(回復力)をもつこと。

3. 親の子育てにおける大切なこととの結びつき

親が「人として美しく生きること」は、日々の具体的な子育ての営みと深く直結しています。

① 「自己肯定感」の土壌を作る

親が自分自身の人生を大切に、誇りを持って生きている姿を子どもに見せることは、「私は私のままでいいんだ」「大人になるって素敵なことなんだ」という子どもの深い安心感と自己肯定感につながります。

② 「道徳心」や「倫理観」を体感で伝える

「人に優しくしなさい」「約束を守りなさい」と親が口で教えるより、親自身が日常の中でそれを体現している姿を見せることの方が子どもに対しては圧倒的な説得力があります。親の背中を見て育った子どもは、自然と正しい判断力を身につけます。

③ 「自立」への最高の導き

親が自分の足で立ち、自分の人生を切り拓いていく姿こそが、子どもが将来自立した大人になるための最高の見本となります。

ここで大切なことは、「人として美しく生きる」ことは、子どもに立派な結果を見せることではありません。「不完全でありながらも、誠実に、誇りを持って、日々を懸命に生きる姿」を背中で見せ続けることそのものです。その親の姿こそが、子どもにとって何物にも代えがたい最高の財産であり、未来を生き抜くための羅針盤となります。日々の忙しい子育ての中で、自分自身を大切にしている「生き方の姿勢」が、子どもにとっては何よりも素敵な見本になるのです。

「人として美しく生きる(内面や生き方の美しさ)」と「美人(外見的な美しさ)」ということは、一見すると異なる概念のようですが、よく見ていきますと子育てや人間関係において、お互いを引き立て合い、深く影響し合う関係にありますので、人として美しく生きているお母さんは子どもにとってはまぎれもなく美人であるわけです。

この2つの関わりについて、子育てや人間性の視点から整理して見ていくと次のようになります。

1. 「外見の美しさ」と「生き方の美しさ」の相乗効果

外見の美しさは生まれ持った骨格や整ったパーツだけでなく、その人が纏う雰囲気や表情、姿勢なども大きく含みます。内面は外見に滲み出るといいます。日々の習慣、他者への思いやり、心の余裕、誠実な生き方は、やがてその人の表情の柔らかさ、目ヂカラ、立ち居振る舞い(=外見の魅力)として表れます。外見へのケアは自己受容の第一歩と言われるように、身なりを整えたり、自分を大切にケアしたりすることは、「自分を尊重する」という生き方の表れです。自分を大切にできる人は、他者に対しても優しく接することができます。

2. 子どもの目に映る「美人」と「美しい生き方」

特に感受性の豊かな子どもにとって、親の「美しさ」の意味は成長とともに変化していきます。幼少期の子どもの見方としては、子どもにとって、おめかししたお母さんや身なりを清潔に整えたお父さんは、純粋に「憧れの存在」であり「自慢の親」です。外見的な美しさや華やかさは、子どもに直感的な喜びや誇りを与えます。一方、成長した子どもの視点としては、子どもが成長するにつれて、「顔立ちの美しさ」以上に、「困ったときにどう振る舞うか」「人を傷つけない優しさを持っているか」「自分の人生を面白がって生きているか」という、生き方の美しさに気づき、心を打たれるようになります。

3. 真の魅力となる「外見と内面の融合」した美しさ

単に整った外見だけでは、年齢を重ねるにつれて説得力を失うことがあります。逆に、それほど立派な生き方をしている、自分自身を雑に扱ってしまえば、子どもは美しいと見ることはできません。真の「美しさ」とは、外見の美しさ(自分を大切にすること・清潔感・華やかさ)と、生き方の美しさ(誠実さ・強さ・他者への思いやり)が一つに融合したとき、その人固有の圧倒的な「魅力」や「オーラ」が生まれます。

親が「自分という人間を大切に(外見のケアも含む)、かつ、人として誠実に生きる姿」を見せること。それは子どもに対して、「自分を愛すること」と「人を愛して正しく生きること」は矛盾しないという素晴らしいメッセージになります。日々の生活の中で、親が「外見を整えること」と「内面を磨くこと」のバランスを大切に、子どもに真の美しさを伝えていくことは、子どもの素敵な未来を切り開くことになるのです。



今回のコラムを読むと「子は親の鏡」という言葉が思い浮かびます。自分の子どもには「立派な人間になってほしい」と思いますが、自分自身を思うと「立派ではないなあ」と反省しか出てきません。まずは、メジャーリーグの大谷翔平選手のようにごみを捨てることから始め、運を拾い徳を集め、自分磨きを心がけようと思います。いえ、最低条件として、人生を楽しんでいる姿を、胸を張って示したいと思います。

